

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○農業農村工学会平成26年度定時総会（通算第47回）の開催について 5月27日開催	80
○平成26年度JABEE農学系分野審査講習会への参加のお願い  申込締切 6月18日	80
○平成26年度「研究グループ」の助成金募集について（再） 申請締切 6月30日	80
○平成26年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再） 申請締切 9月12日	81
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	81
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	82
○平成27年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	82
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	83
○International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) 2014国際会議の開催について 10月30～31日開催	84
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	84
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと2012年1月から2014年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	84
○第63回理論応用力学講演会の開催について 講演申込締切 6月13日	85
○第17回キャビテーションに関するシンポジウム講演論文の募集について 講演申込締切 7月25日	86
学会記事	87

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成26年6月28日	技術者教育認定に関する検討委員会	平成26年度JABEE農学系分野審査講習会 	—	東京都	82巻5号
平成26年8月26～29日	大会運営委員会	平成26年度農業農村工学会大会講演会 	—	新潟市	81巻12号 82巻1,2,3,4号
平成26年11月13日	京都支部	第71回研究発表会 	—	岐阜市	82巻4号

### 第82巻第6号予定

**展望：**誰もが住みたくするような農村を目指して—北陸管内の農業農村整備の展開方向—：中里良一

**小特集：**北陸における農業農村整備の特色と展開

- ①新潟らしい新技術調査検討の取組み：松尾勝則ほか
- ②石川県の農業農村整備における新たな取組みについて：石垣広男ほか
- ③富山県の農業農村整備の展開方向：石川英一
- ④福井県における農業農村整備：市埜吉孝
- ⑤新潟における産官学連携による農業農村基盤の整備・利用・再生技術の開発：鈴木哲也ほか

### 技術リポート

北海道支部：山地流域を含む水田地帯における農業用排水路の流出実態：岸田隆志

東北支部：基盤整備における生物多様性の確保に向けた取組み：太田賀久

関東支部：耕作放棄地再生における大区画水田化と利用集積：村越神人ほか

京都支部：岡島頭首工における堰柱の耐震補強：吉田知永

中国四国支部：平田船川汐止堰の施工と運用：河田健太郎

九州沖縄支部：沖積砂（礫）を基礎とする重力式ため池の建設：當山国博ほか

**小講座：**地すべり防止施設とその維持管理：稲葉一成

**私のビジョン：**農村の論理や知恵を読み解く：坂田寧代

## 農業農村工学会平成 26 年度定時総会（通算第 47 回）の開催について

公益社団法人農業農村工学会定款第 18 条により、平成 26 年度定時総会を下記により開催いたしますので、代議員にはご出席下さるようご案内申し上げます。なお、定款第 18 条 4 項により、正会員および名誉会員は総会に出席して、議長の了解を得て意見を述べることができます。

議案の詳細につきましては、学会ホームページに掲載しています。

### 記

1. 日 時 平成 26 年 5 月 27 日（火）14：00～15：00
2. 場 所 農業土木会館 2 階会議室

### 3. 議 案

#### 審議事項

1. 平成 25 年度事業報告
2. 平成 25 年度決算
3. 理事及び監事の選任
4. 名誉会員の推挙

#### 報告事項

1. 平成 26 年度事業計画
2. 平成 26 年度収支予算

## 平成 26 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



JABEE に対する農学関係者の一層の理解と JABEE プログラム修了者を受け入れる側の理解と協力を得るため、農学関係学協会が共同で研修会を開催いたします。多くの皆様の参加を期待しております。奮ってご参加下さい。

なお、本研修会は JABEE 公認で、研修会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。

1. 日 時 平成 26 年 6 月 28 日（土）9：40～17：20  
（情報交換会 17：20～）
2. 会 場 東京大学弥生講堂  
（東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内）
3. 主 催 農業農村工学会、農学会、森林・自然環境技術者教育会、日本生物工学会
4. 参加費 5,000 円（当日、現金で支払い）  
情報交換会費：2,000 円（当日、現金で支払い）
5. 申込先 農業農村工学会事務局 花塚あて  
E-mail：hanatsuka@jsidre.or.jp
6. 申込締切 平成 26 年 6 月 18 日（水）

### 7. プログラム（案）

- |             |                        |
|-------------|------------------------|
| 9：00～       | 受付開始                   |
| 9：45～ 9：50  | オリエンテーリング              |
| 9：50～10：00  | 開会の挨拶                  |
| 10：00～10：50 | JABEE 認定制度の考え方と基本方針の説明 |
| 10：50～11：40 | JABEE 認定基準の解説          |
| 11：40～12：10 | 各分野の分野別要件の説明<br>（昼食）   |
| 13：10～13：50 | 社会的背景、技術士制度との関係説明      |
| 13：50～14：40 | 認定・審査の手順と方法、審査手引きの解説   |
| 14：40～15：30 | 自己点検書の作成について<br>（休憩）   |
| 15：40～16：30 | 実地審査について               |
| 16：30～17：20 | 質疑応答                   |
| 17：20～      | 情報交換会                  |

## 平成 26 年度「研究グループ」の助成金募集について（再）

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 26 年 6 月 30 日（月）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会ホームページ参照）で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

### 「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研

究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。

2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

- (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。
- (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。
- (ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

- (ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に40歳未満であること。
- 5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。  
注1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。  
注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

### 平成26年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について(再)

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度(原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成26年9月12日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。  
(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。  
(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成26年9月12日(金)

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

#### 必要記載事項：

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

### 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況

になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個

人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

**個人会員一口** 5,000円(何口でも可)

**法人会員一口** 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま安価に取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 CPD を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい!!

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

#### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前に Web 利用登録が必要)

#### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌 11 月号掲載の問題は 12 月末日が解答期限)

#### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 CPD を、7~9 問正解で 1.5 CPD を自動登録(正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。)

#### 6. 自動登録の時期

取得した CPD は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

### 平成 27 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 27 年発行の学会誌も引き続き皆様からの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

#### 趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

#### 記

#### 1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

#### 2. 対象巻号

学会誌第 83 巻(平成 27 年 1~12 月号)

#### 3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。(四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます)。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締切

春季 平成 26 年 6 月 30 日

夏季 平成 26 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限り

#### 6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 83 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 27 年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙

写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 82 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
82 巻 6 号 北陸における農業農村整備の特色と展開	公募なし
7 号 農業農村整備事業における再生資源の利活用（仮）	公募終了
8 号 農業農村整備事業における気候変動への対応および貢献（仮）	公募終了
9 号 これからの「むらづくり」と「まちづくり」 ーグローバル時代におけるローカル・コミュニティの創造ー（仮）	公募終了
10 号 農地の集積と大区画化が目指すもの（仮）	公募なし
11 号 先人たちが拓いた田畑、施設、水遣いの今ー世代をこえて引き継がれる財産（仮）	6 月 16 日
12 号 農業水利施設の長寿命化・耐震化対策技術（仮）	7 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

82 巻 11 号テーマ「先人たちが拓いた田畑、施設、水遣いの今ー世代をこえて引き継がれる財産」(仮)

農業土木事業では、多くの先人たちが水や道を引き農地を拓き整備してきました。その農地の多くは、食糧生産の場となるだけでなく、地域の特産品を育てたり、加工原料の生産拠点となるなど幅広く活用されています。また、古い歴史をもつ農業水利施設は、農地へ灌漑用水を供給する機能を効果的に発現するために、材料、構造、水遣いなどにさまざまな工夫と地域の

独自性が見られます。これら施設や水利慣行は、多くが共同作業による継続的な維持管理と伝承により守られてきたと考えられます。

しかし、現在では、後継者不足や農地を取り巻く周辺環境の変化に伴い、農業を基盤に形成されてきた地域の歴史、水利システムの役割と維持管理の意味が次の世代へと継承されにくく

なっている状況にあり、インフラの維持が課題となっています。そのような状況下で、農業土木事業の役割を見つめ直し、農業水利施設や整備後の圃場がどのように受け継がれ、活用されているかを知ることは大切なことではないでしょうか。

そこで本小特集では、それぞれの時代のニーズに応じて整備

されてきた農地、農業水利施設、伝統的な水遣いの紹介、それらがこれまでどのように活用され、地域に貢献してきたか、そして保全や継承、新たな活用に関する事例について広く報文を募集します。

## International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) 2014 国際会議の開催について

国際水田・水環境工学会 (PAWEES) 国際会議は、2014年10月30～31日、台湾高雄市で開催されます。詳しくはホームページ (<http://pawees.net/>) をご覧ください。

### 1. 日程

10月30日 受付  
開会式

PAWEES 2014 International Conference

Award Ceremony and Annual Meeting

10月31日 Technical Tour

### 2. 今後の予定

6月30日 アブストラクト締切 (250ワード)  
7月15日 受理連絡  
8月31日 フルペーパー締切

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.025と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社 : Springer-Japan 社

発行スケジュール : 年4回

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先 : 農業農村工学会編集出版部 中村あて

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2014年4月に Vol.12, No.2 が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルは IF=1.025 と高い評価を得ております。

また、世界14カ国から Editor (23名) を選出することによ

り、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。  
投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用

用下さい。

編集事務局：Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL：+81-92-642-2909 FAX：+81-92-642-2914

E-mail：yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief：Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)  
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 23 名
- ・ Editing Board 26 名
- ・ Chief Management Editors  
Dr. Yoshiyuki SHINOGI  
The Graduate School of Bioresource and Bioenviron-

mental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Jin Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

・ Managing Editors

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：http://pawe.edmgr.com/に詳細を記載しています。

## 第 63 回理論応用力学講演会の開催について

1. 主催 日本学術会議 機械工学委員会、土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
2. 共催 農業農村工学会ほか 23 学協会 (予定)
3. 開催予定日 平成 26 年 9 月 26 日 (金)～28 日 (日)
4. 会場 東京工業大学大岡山キャンパス (東京都目黒区大岡山 2-12-1)
5. 趣旨 「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある世界の組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として開催されてきました。力学が細分化する中で、おのおのの分野の先端的研究を集めて、幅広い力学研究の動向を確かめ合うことが本講演会の目的です。本年度も、多くの力学の共通語を中心としたオーガナイズドセッションとパネルディスカッションを組み、ご要望にお応えしたいと存じます。皆様の多数のご参加をお待ちしております。
6. ホームページ <http://news-sv.ajj.or.jp/nctam/63/>
7. テーマ企画一覧 (予定)
  - 〔特別講演〕
  - 〔パネルディスカッション〕
  - 〔オーガナイズドセッション〕
  - 〔一般セッション〕 固体力学, 流体力学, 振動・制御, 数値解

析, その他

※詳細は決まり次第上記ホームページに掲載します。

### 8. 講演申込方法

オーガナイズドセッション、一般セッションのいずれも、ホームページから演題登録システムを利用してお申し込み下さい。締切は平成 26 年 6 月 13 日 (金) 午後 5 時とし、その後はシステムを停止しますのでご注意ください。なお、講演発表は、同一のオーガナイズドセッション内では原則として 1 人 1 回に限りです。

### 9. 講演論文集原稿

審査の結果、採択された講演については、A4 判 2 ページの PDF ファイルをホームページの演題登録システムより提出いただきます。締切は平成 26 年 8 月 8 日 (金) とし、その後はシステムを停止しますのでご注意ください。なお、講演 1 件につき原稿整理費 (一般 10,000 円、学生 5,000 円) を申し受けます。整理費の支払方法については後日ホームページにてご案内します。

### 10. 講演会参加申込方法

会期中、会場にて参加申込みを受け付けます。直接ご来場下さい。

### 11. 講演会参加費 無料

## 12. 講演論文集 (USB メモリ)

原稿整理費をお支払いいただいた方に配布いたします。なお、別途ご希望の方は、会期中会場にて有料で頒布いたします。

## 13. 英文論文

著者の希望により発表論文をあらためて英文で投稿されると、査読による審査を経て後日発行する英文論文集に収録され

ます。詳細は決まり次第ホームページに掲載いたします。

## 14. 実行委員会事務局

東京工業大学大学院総合理工学研究科

人間環境システム専攻 元結正次郎

〒226-8502 横浜市緑区長津田 4259 G3-8

E-mail : nctam63@aij.or.jp

## 第 17 回キャビテーションに関するシンポジウム講演論文の募集について

第 17 回キャビテーションに関するシンポジウムを下記により開催いたします。本シンポジウムは、異なった専門分野の研究者、技術者がキャビテーションという共通の問題に対する認識を深めるという趣旨で、日本学術会議の主催により、過去 16 回開催されてまいりました。第 2 回以降は下記の学協会が共催しています。

今回も特別講演や特別企画のほかに、参加者のオリジナルな論文を公募いたします。内容は、キャビテーションに関するものであれば、ジャンルを問いません。下記項目 6. にありますように、今回も (1) 普通講演のほかに、(2) 特別企画の講演論文も募集いたしますので、どうぞ多数講演論文をお寄せいただきますよう、お願い申し上げます。

1. 主 催 日本学術会議第三部 (予定)、第 17 回キャビテーションに関するシンポジウム実行委員会
2. 共 催 農業農村工学会ほか 21 学協会 (予定)
3. 開催日 平成 26 年 11 月 20 日 (木)、21 日 (金)
4. 会 場 東京大学生産技術研究所  
(東京都目黒区駒場 4-6-1)
5. ホームページ <http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/~cav17/>

## 6. 講演種別

- (1) 普通講演：内容未発表の論文
- (2) 特別企画の講演論文：以下の二つの特別企画を予定
  - ・キャビテーションの数値解析  
(企画者：九州大学 渡邊 聡教授)
  - ・キャビテーション応用  
(企画者：東北大学 祖山 均教授)

## 7. 講演申込締切 平成 26 年 7 月 25 日 (金)

ホームページ上にて電子ファイルにより申し込んで下さい。

## 8. 原稿締切 平成 26 年 10 月 10 日 (金)

ホームページ上にて電子ファイルにより投稿して下さい。

なお、従来どおり審査の上採否を決定します。

## 9. 問合せ

〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1

東京大学生産技術研究所 加藤千幸教授

TEL : 03-5452-6190 (直通) FAX : 03-5452-6191

E-mail : cav17@iis.u-tokyo.ac.jp

詳しくはホームページをご覧ください。

### 地域環境工学シリーズ9

## 食の安全と地域の豊かさを求めて

— 新しい畑整備工学 —

農業農村工学会発行

### 目 次

- |   |   |
|---|---|
| I. わが国の畑作の歴史と特徴<br>1. わが国における畑作の歴史<br>2. 営農形態別の特徴<br>3. 畑整備の現状<br>4. 国際情勢、社会情勢の変化<br>5. 中山間地域における畑整備<br>II. 畑整備の基礎<br>1. 作物と水<br>2. 畑地基盤と畑作農業 | 3. 畑地の整備手法<br>III. 畑整備の今後の展開方向<br>1. 畑整備における技術的課題<br>2. 新たな畑整備の展開<br>IV. 畑整備と地域環境管理<br>1. 土壌侵食防止<br>2. 持続的農業のための土管理<br>3. 畑作と環境保全<br>4. 環境との共存をめざした畑作の将来像 |
|---|---|

A5判 約210ページ 定 価3,394円 (税込・送料学会負担)  
 会員特価2,982円 (税込・送料学会負担)  
 [会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4  
 公益社団法人 農業農村工学会  
 ☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494